

会 議 録

会議名	令和5年度第2回山形市救急救命業務検証会議
開催日時	令和6年3月26日(火) 午後1時30分から午後3時10分
開催場所	山形市西消防署多目的ホール
主催	山形市消防本部
出席者 (敬称略)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成員 (7名) (五十音順) 後藤道子、野口比呂美、廣部公子、藤澤睦夫、細谷真紀子、森野一真、渡辺英一 ※金谷透、橋拓、三浦秀隆 (欠席) ・ 山形市 (7名) 市長、消防長、通信指令課長、救急救命課長、通信指令課総括主幹、通信指令課長補佐、救急救命課長補佐
傍聴者	・ 2名(記者)
検証事項	<ul style="list-style-type: none"> ■映像通報システム(Live119)について(通信指令課) ■応急手当普及啓発推進事業の新たな取り組みと今後の展望について(救急救命課)
情報提供	■救急医療情報共有システムの導入について(救急救命課)
座長(敬称略)	森野 一真
資料	配布資料参照
作成者	山形市消防本部 通信指令課長補佐 高橋 靖幸

■市長あいさつ

市 長

みなさんこんにちは。本日は大変お忙しい中、「山形市救急救命業務検証会議」にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。皆様には日頃から山形市の救急救命体制の質の向上に多大なるお力添えをいただいておりますことに心より感謝を申し上げます。

さて、令和5年は、猛暑による熱中症の増加などから、全国的にも救急需要が高まり、山形市の救急出動件数は過去最多となった前年を705件上回る12,747件を記録いたしました。

また、搬送病院の決定に時間を要する救急搬送困難事案も依然として600件を超える状況となっております。こうした状況のなか山形市としても、早急に病院への搬送を行い少しでも早く治療を開始できるよう、令和6年度から新たな試みとして「救急医療情報共有システム」の導入を予定しているところあります。

本日の会議におきましては、第1回の会議で検証していただきました映像通報システム(Live119)の改善状況のほか、応急手当普及啓発推進事業の令和5年度の取り組みと今後の展望について、検証していただきます。

今後とも、いただきましたご意見、ご指摘などをしっかりと活かしながら、救急救命体制のより一層の強化に努めてまいりますので、皆様方には、それぞれのお立場から、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

■座長選出

森野 一真 山形県立河北病院 病院長

■検証事項

1 映像通報システム（L i v e 1 1 9）について（通信指令課担当：渡邊通信指令課長説明）

※【会議資料1】により説明

《構成員からの質問・意見等》

構成員

使用についてのトラブルとは何を指してのトラブルなのか。具体的にお願ひする。

山形市

現在の使用状況ではトラブルの報告はされていない。他市のトラブルは発生していないと報告を受けている。想定としてユーチューブ等動画配信での個人情報流出や、怪我された方を写すことでの心情的なところで「なぜ撮影するのか」等のトラブルを想定している。

構成員

個人情報保護の問題があり第三者を映像化する事で、トラブルのもとになると思われるが、皆さん理解してもらえればよい。

座長

撮影者には消防本部から依頼されて撮影していますと伝えて頂くよう運用にも記載がある。撮影者には消防本部から依頼されていると伝えてもらう形がよいのではないかと。

構成員

注意喚起の画像について非常にわかりやすく良い取り組みだと思う。スマートフォンを構えている時に、トラブルを抑制する画像が目に入るところがよいと思う。この運用は内部要綱か、市民に見られる外部要綱か。

山形市

外部からも確認できる要綱である。

構成員

外部からでも確認できる要綱であれば、注意喚起の画像の内容も通知して頂ければと思う。また、動画にも注意喚起の画像を追加して頂いてトラブルの壁が下がればよいと思う。

構成員

救急に関しては高齢者がお世話になる比率が高いと思われるが、件数を教えて頂きたい。老人クラブの会合の中でそのような数字を具体的に示し喚起をしていきたいと考えている。

山形市

令和5年において出動件数救急出動18,187件に対し高齢者搬送件数は7,788件で65,6%となっている。

座長

老人クラブの方にはどのようなプロセスでL i v e 1 1 9の講習をやるのか提示して、スマートフォンのスキルの部分と、L i v e 1 1 9に特化した必要な知識の部分と二つに分けて、前半

の部分はスキルとして、後半は理解度の確認後にプラス上乗せでL i v e 1 1 9の説明をすることといいと思われるが、そのようなプロセスはあるか。

山形市

山形市老人クラブ連合会で行っているスマートフォン講習会において、進捗状況をみながら事務局長と協議しL i v e 1 1 9の講習を開催することとした。事務局長と協議しながら進めていく。

構成員

効果があるのがわかった。L i v e 1 1 9の使用件数実績は予想件数なのか。また、より多くの件数を上げていくことでの課題はあるか。

山形市

課題として、口頭指導の場合であれば接続時間まで約1分15秒要する、協力者がいなければ口頭指導を優先する。L i v e 1 1 9にできることは、位置情報の取得、映像を指令員に送ることなどで状況を把握することが大きい。現在の運用状況から実績結果は予想していた。

座長

口頭指導という言葉は一般市民の方はわからないと思うが、心肺停止などの緊迫したなかで何がしかのタイムラグが発生していればマイナスかなと感じる。位置情報取得としては有用と思われる。

座長

119番通報のうちでL i v e 1 1 9使用時での心肺停止の方以外の方に対してどの位の割合を想定しているのかという話だと思われるが。消防側で目標なり数値的な設置はあるか。

山形市

実質的な目標は掲げていない。積極的に使用するよう指導している、他市の状況も調査したい。

構成員

通報の中でどのようなケースであればL i v e 1 1 9が有効なのか、より詳細に検討してもらい、このシステムが是非有効だという場合により、確実に使えるようにして頂ければと思い発言した。

座長

個人的には口頭指導の観点でタイムラグは要検討事項と思われる。1分以上時間がかかるので工夫しなければならないと思う。

構成員

座長のおっしゃる工夫というところで、1分15秒というところでフローチャートをみると、何人かで実施し平均値等を抽出したということか。

山形市

通信指令課員が繰り返し行った平均値を示している。

構成員

フローチャートをみると検証会議のきっかけ・原因にもなったところを丁寧に確認して頂いており、電話を受けたほうも安心できるのが伝わるが、文言が長いので1分15秒という数値につながるのだと思う。東京消防庁のユーチューブをみると割と次、次、次という形でL i v e 1 1 9につないでいたイメージだ。何か工夫ができればと思う。

座長

消防の方がすると、どんなことをするかわかっているのですが、実際はもう少しかかると思う。余裕があれば実際の事例でどのくらいかかるのか人手が必要ですがチェックできないか。

山形市

今後、チェックしていきます。

構成員

高齢者の講習会の開催ということで、令和5年度はスマートフォンの基本的操作の講習会をやったとのことだが指導者は消防署の方か。

山形市

山形市老人クラブ連合会で主催している講習会で、消防は参加していない。

構成員

是非スマートフォン講習会に行って、どのようなところが高齢者の方にとって使い方がわからないのか、一度確認してはいかがか。例えばLive119フローチャートには自動回転とあるが、中には設定で自動回転を止めている方がおり、横に写せないことがあることから、そういったところを消防署の方にも確認して頂ければと思う。

構成員

Live119も含め119番通報に関してバイスタンダーが複数人いる場合非常に有効であるということを前提とすれば、高齢者だけでなくより多くの人に知ってもらう必要があるのかなと考えたときに、スマートフォンだったりタブレットを当たり前に見える若い年齢の方たちへのアプローチも有効に働くのではないかと感じている。若者に対してのアプローチも大切で、学校なのかサードプレイスなのか選択肢はあるかと思われるが、検討して頂ければと思う。結果、若者を通じてご高齢の方に教え伝えるなど期待ができるのではないか。

構成員

Live119のPR動画を見させて頂いた。ちょっと出演者の表情が硬くって、緊張しているようなPR動画なので、マスコミにも広げるという観点からは是非練り直して頂きたい。

2 応急手当普及啓発推進事業の新たな取り組みと今後の展望について（救急救命課担当：武田救急救命課長説明）

※【会議資料2】により説明

《構成員からの質問・意見等》

構成員

応急手当講習会を受講して修了証を頂いた方の、その後の活用はありますか。

山形市

応急手当指導員・普及員講習を受講された方からボランティア指導員としてご協力いただき、令和6年度のボランティア指導の依頼においても、応急手当指導員・普及員講習を修了された48名の一般市民の方々から指導協力の申し出があり、指導時の保険にも加入させていただいたところである。

構成員

それに関する広報は実施しているのか。

山形市

普通救命講習の開催時や応急指導員・普及員講習の開催時にボランティア指導員としての参加についての取り組みを紹介している。

構成員

一般の方への広報として、講習会受講後にボランティア指導員としての活動の場があることについて広報は実施しているのか。

山形市

その点に関しましては広報が足りない状況ですので、今後前向きに検討していきたいと思います。

構成員

老人クラブの取り組みとして、今まではクラブ員の親睦や楽しみを最優先に取り組んできたが、今期については老人クラブとして何ができるか、どのようにボランティアとして係るのかということについて考えを進めている。

老人クラブは高齢化しているが、皆が元気であるため是非活用していただきたいことと、事務局と打ち合わせをしながら提案・依頼をしていただければ、それに対して老人クラブでも対応していく能力があるので是非活用をお願いしたいと思う。

山形市

心肺停止傷病者の発生の約8割が自宅で発生している現状で、高齢者世帯や家族が仕事などで外出しており、高齢のご夫婦だけが在宅しているような状況では、高齢者が心肺蘇生を行う状況も少なくなく、高齢者が心肺蘇生法を習得していることの重要性は非常に高いと考えておりますので、ご意見をいただいたとおり高齢者への応急手当の普及にも力を入れて行きたいと考えております。

構成員

開催回数を2倍に増やしたことについて、デメリットがあるのかをお伺いしたい。例えば人員の都合がつかないことや、職員の加重になっているなどあれば教えていただきたい。

山形市

開催回数を倍に増やした一般公募による普通救命講習の指導は、救急隊員が担当しております。救急隊員の非番による指導に関しては、各救急隊が輪番で実施しており、開催回数を倍に増やしたことで、救急隊員の負担も増えたと思いますが、救急隊から意見を聴取したところ余力があるとの意見もあり、消防署と検討しながら回数の調整を図っていきたくと考えております。

また、ボランティアの指導員からは、土曜日・日曜日に開催している一般公募の講習会でも指導したいという要望があり、現在は救命入門コースだけではなく一般公募の普通救命講習Ⅰ、Ⅲについても指導していただいているところです。

構成員

会議資料2の2ページ、3の課題解決への新たな取り組み、(2)広報の強化の中に積極的な広報活動ということで記載がありますが、この取り組みに山形市のSNSや公式LINEの使用がなかったため利活用していただきたい。市民側から情報を取りに行くよりは、LINEのプッシュ

通知のように、目にしようと思わなくても目にする情報で活動が広がれば良いと感じている。

また、同項中の市役所各部局と想定受講者のところで、防災対策課に自主防災組織が入っていないなかったり、保育育成課に放課後児童クラブが入っていないことを考えると、想定受講者は更に広がる可能性があると感じている。

会議資料2の5ページ、4の新たな取り組みの効果と今後の展望、(1)講習会受講者数の増加の中で、普通救命講習Ⅲの受講者数の増加というところは、乳幼児や児童の窒息の事故があったというところで、子育て世代に応急手当講習の需要が高まっており、講習回数を増やしていただければと感じている。

また、同項中の(3)講習会の質の向上で、「あっぱくんライト」でより多くの受講者により多く胸骨圧迫をしていただき実技を学んでいただけるという良さがあるなかで、指導者1人で全受講者に一括で統一した指導ができるというところはメリットではあると思うのですが、逆にこれくらいの講習であれば、この受講ではなくてもよいのではと思い始める受講者も出てくるのではないかと感じている。だからこそ、応急手当指導員や普及員のファシリテーションのスキルがより重要になるのではと感じている。みなさんスキルは十分持ち合わせてはいますけれども、スキル以外の会話や心の寄り添い方なども必要性が高まっているのではないかと感じている。

山形市

市役所各部局への依頼については、まず市役所内部で応急手当講習の内容や提供状況等について共有し、各関係団体への広報により受講者を増やすことを目的にしたものであるが、今後、依頼先の拡大も考慮していく。普通救命講習Ⅲについては、今般、うずらの卵による窒息事案が全国ニュースで報道されたという背景等から、乳幼児の異物等による窒息時の対応を考えた保護者等からの需要が高まったのではないかと考えている。

「あっぱくんライト」の導入効果については、ご指摘いただいたとおり「あっぱくんライト」で胸骨圧迫を実施しただけで満足してしまうということを懸念しております。胸骨圧迫の実技時間について受講者アンケートを実施しましたが、各講習会において胸骨圧迫に関しては十分満足しているという回答が9割を超えているという結果から、心肺蘇生訓練人形を使用して胸骨圧迫の質及び技術を向上するという導きに関しても、消防本部として十分な検討が必要であり、その点を工夫していきたいと考えております。

構成員

「あっぱくんライト」は心肺蘇生訓練人形と違い、意識の確認や気道確保の指導がやりにくいので心肺蘇生訓練人形と組み合わせて、より有効に指導していただきたいと感じている。

山形市

日本赤十字社山形県支部との情報交換で、どのような資器材を使用し、どのような講習を実施しているのかなどについて様々な取り組みについて話を伺った。受講者からの講習内容の要望に応え、色々な講習をカスタマイズしているという工夫もされていたので、消防本部としても講習内容による資器材の使い分けなどを十分考慮し、新たな講習会の枠組みを作りたいと考えております。

座長

「あっぱくんライト」を使用することですべての受講者が一斉に胸骨圧迫を体験できるということは良いと思う。ガイドラインにもあるが胸骨圧迫をする際の背面の性状、柔らかい所と硬い

所を比較できるような講習をしているのか。

山形市

講習会で柔らかい所で実施して、どのくらい効果が低いのかということは現状では実施していない。

座長

是非柔らかい所でも体験させていただきたい。

「ヤンバイダー」は山形市のものですか。

山形市

「ヤンバイダー」は山形市の公式キャラクターではありません。ヤンバイダー側からイベントなどでの連携PRがあり、今年度は出演料が無料ということもあってタイアップを依頼したところ。「ジュニア救命講習会」や広報活動では「ヤンバイダー」効果でとても盛り上がったところである。

座長

人を集める力があるということであれば、多少の予算を付けてもよいのではないかと考えるので検討いただければと思う。

■情報提供

1 救急医療情報共有システムの導入について（救急救命課担当：武田救急救命課長説明）

※【会議資料3】により説明

《構成員からの質問・意見等》

構成員

救急医療情報共有システムは救急車全台数に配備されているのか、救急医療の情報共有を想定している病院はどこか、タブレット端末の使用は山形市消防本部だけで実施する取り組みなのか、周辺市町村と取り組むのか、多言語化のアプリをタブレットで使用しているが、今後も使用できるのか伺いたい。

山形市

山形市の救急隊8隊全隊にタブレット端末を配備し、救急医療情報共有システム活用する予定である。

救急医療情報共有システムを導入し、情報を共有する病院に関しては、山形市内の9つの救急告示病院のうち、8病院からご協力をいただけることとなる。

救急医療情報共有システムの導入については、村山地域で令和5年に救急搬送された傷病者約2万人のうち、約7割が山形市内の病院に搬送されている現状から、山形市だけでこのシステムを活用しても、他消防本部の搬送状況が把握できず効果が上がらないこと、また県内の救急搬送困難事案のほとんどが村山地域で発生していることなどから、山形市を含む山形連携中枢都市圏の7市7町全てにおいて活用できるように山形連携中枢都市圏の新規事業としても進めているところであり、現在、村山地域の全消防本部と18の救急告示病院のうち16の病院から参加の返事をいただいているところである。

多言語化アプリについては、現在使用しているタブレット端末は使用できなくなるため、新た

に救急医療情報共有システム用として導入するタブレット端末に多言語化のアプリをインストールして使用することになっている。

構成員

災害時などでインターネットが使用できなくなった場合の対応も考えていただきたい。

山形市

救急救命士には電話による口頭伝達で、伝達を受ける医師等が現場が見えるように説明することが求められており、これまで口頭伝達の技術向上に努力してきたところである。

ご指摘のとおり災害等によるインターネットのトラブルでシステムが使用できなくなった場合においても情報伝達が迅速にできるよう、口頭伝達についてはシステム導入後も継続的にトレーニングを重ね、その上で救急医療情報共有システムを活用し、医療機関までの到着時間の短縮を図っていくということを肝に銘じて活動していきたいと考えている。

■次回開催について（武田救急救命課長）

令和6年度の第1回山形市救急救命業務検証会議は8月に開催を予定している。

■閉会